

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 各務原高等学校 学校運営協議会 (第2回)
- 2 開催日時 令和6年10月2日(水) 13:30~15:30
- 3 開催場所 各務原高等学校 会議室
会議に先立ち、委員による授業参観を実施した
- 4 参加者
- | | | |
|-----|-------|------------------|
| 会長 | 長倉 守 | 岐阜大学大学院教育学研究科准教授 |
| 副会長 | 小川 陽子 | 新生こどもえん園長 |
| 委員 | 丹羽 文雄 | 各務原市立中央中学校長 |
| | 古田 希雄 | 各務原市 市長公室 次長(欠席) |
| | 堀 善子 | 各務原市 市民生活部 税務課長 |
| | 鈴木美恵子 | 本校PTA副会長 |
| 学校側 | 野々山伸一 | 校長 |
| | 堀 卓也 | 教頭 |
| | 杉山 秀謙 | 教頭 |
| | 武藤小百合 | 事務長 |
| | 美濃輪智彦 | 教務主任 |
| | 橋本 純 | 生徒指導主事 |
| | 水野 里美 | 進路指導主事 |

5 会議の概要(協議事項)

(1) 授業(コミュニケーション能力向上講座)を参観して

意見1: 子供たちがたいへん良い姿勢だった。学級担任ではなく劇団の方がファシリテーターとして行っている部分がたいへんユニークである。コミュニケーション能力だけでなく自己表現や他者理解という部分でも効果が期待できる。これで終わりと思わず、授業や特別活動、探究活動につなげていけるとよい。

意見2: 初めて見たが、生徒が楽しそうでよかった。言語コミュニケーションももちろん重要だが、その一方で非言語コミュニケーションを自分が使えることを学ぶことで、意思の疎通がもっと上手に図れるようになり、人間関係がうまく構築できるようになる。

意見3: 小中学校では少人数でコミュニケーションをとる授業や活動が日常的に行われているため、高校生のコミュニケーション能力は本当に低いのかと疑問に感じる。ただし、中学では同じ地域の仲間だけだったのが、高校では他の地域から新しい仲間が増えるという点から、なかなか自分からアクションを起こせないことは考えられる。もちろん初対面の人に対してもコミュニケーションを取る力は重要である。

意見 4 : 劇団員の身振りや対話の仕方などコミュニケーションの取り方はたいへん勉強になり、面白い取り組みである。目に見えない部分ではあるが、生徒にとってこのような取り組みは大きいと思われる。

意見 5 : 最初はこれは高校生が行うことが必要な活動なのかと思った。コミュニケーション能力だけでなく、心の問題も大きいと思われる。

(2) 「生徒・保護者等対象学校評価アンケート」結果及びアンケート結果を踏まえた各校務分掌の分析について

①アンケート全般について

意見 1 : 生徒の回答率が低いことが気になる。回答率を上げるためにも、ホームルームを活用して全員に回答させられるとよい。保護者にとってはわかりにくい項目もあるので、項目を減らしてシンプルにする方法もある。

⇒質問のわかりにくさや、質問の多さなど、検討していかなければいけない点がある。経年比較したい項目もあるが、質問項目の精選や表現の簡略化など、もう少し保護者の方が答えやすいアンケートを目指す。

意見 2 : 保護者が学校に来て、子どもの様子を見る機会がたいへん少ない。また、授業参観なども参加されない保護者の方が多いので、アンケートに答えられない、わからないという回答になってしまう割合が高くなってしまう。

意見 3 : 全体の評価を見たときに、学校が努力してやってきたことに対して、保護者・生徒からしっかりと評価されていると感じた。

②学校生活について

意見 4 : 「お子様はよろこんで学校に行っている」という質問に対して、保護者の方がたいへん肯定的な意見が多く、否定的な意見がほとんどないところから、日頃子どもの姿を見て親は安心して送り出していることがわかる。非常に喜ばしい結果である。

③ICT機器の活用について

意見 5 : ICT機器については、小中学校でかなり使いこなせるようになっており、様々な場面において結構な頻度で使用している。使用している端末が異なる点や、高校では知識量が増えるため、授業中に使用すると逆に時間がかかってしまうケースも考えられるが、使わせてみると意外に上手に活用できるのではないかな。

意見 6 : ICT機器は、先生が提示用に使用しているのか、生徒が学びの中でも十分活用しているのか。

⇒先生によって様々である。それぞれの教科の特性によっても変わってくる。ICTを使用するのが適切な場面と、そうでない場面を、教材や状況を見極めて判断していく必要がある。

意見 7 : 本校には各務原市内の中学校から入学した生徒が7割近くいるので、中学生がどこまでICTを活用することができているのか、授業でどのように活用しているのか、是非とも各務原市内の中学校を参観してみてもどうか。

④総合的な探究の時間について

意見 8 : 総合的な探究の時間については、生徒に如何にして必然性を感じさせるのかという点が重要である。学校として生徒にこういう力をつけさせたいという思いに基づき、成績には関係ないけれど、自分にとってプラスになっていると思わせる取り組みをしてほしい。

意見 9 : 生徒にとっての意味がないとモチベーションが下がるし、理解につながらないし身にもならない。多様化している大学入試に関連するようなテーマ設定にすることで、面接や小論文に活かしていけるのではないか。

意見 10 : 探究活動は生徒によって差が出やすく、ある生徒は自分からどんどん入り込んでいくものなので、評価がばらけてしまうのも仕方のない部分である。少しでも人間力を高める活動になればよい。

意見 11 : 探究的な学びとは、体験の没頭・没入から始まる。「各自で何か調べたいことを調べてみて」では難しく、体験して入り込んでいく経験があつてこそ、疑問が生まれて、それを学びとして解決までもっていくことができ、それが本来の探究的な学びである。

⑤進路情報の提供について

意見 12 : 高校生の子どもを持つ保護者の立場から、進路情報については、まず生徒が自分で入試情報を収集することから始まるのではないか。もちろん学校から保護者への進路情報の提供も必要ではあるが、生徒から保護者へ自分で調べた入試の仕組みなどを説明して、それに対して保護者が自発的に情報収集していけばよいのではないか。

意見 13 : 大学入試の仕組みが多様化しているため、学校側がすべてについて説明するのは難しく、限界がある。1年次の夏休みに親子でオープンキャンパスへ参加することで、保護者の方も自分自身の頃からずいぶん入試が変化したことを感じることもできるし、2年次になったときに慌てることもなくてよい。

⑥ホームページについて

意見 14 : 学校のホームページが以前に比べてたいへん見やすくなっている。

⑦部活動について

意見 15 : 吹奏楽部が全国大会に出場するなど、運動系だけでなく文化系の部活動も頑張っていてとてもよい。

(3) 「高等学校に期待される社会的役割等 (スクール・ミッション)」の策定について

意見 1 : 「地域社会からの位置づけ」という部分で、本校は「文武両道を実践する学校」とあるが適切なものか。
⇒表現そのものが少し時代的で、適していないところもあるように感じられるかもしれないが、勉強だけでなく部活動にも力を入れている部分は、本校に入学する生徒や保護者の方にも評価されている、また期待されている部分であり、本校としてもその部分を前面に出していきたいという思いから、今回は「文武両道を実践する学校」とさせていただいた。今後、再度検討し、決定していきたい。

意見 2 : 「地域を支える核となる人材の育成」の「支える」という部分について、今後人口が減り、高齢者が増えていく背景の中で、少し後ろ向きな感じがするので、未来志向な文言が良い。

⇒「盛り上げる」等の前向きな言葉を検討していきたい。

6 会議のまとめ

- ・第2回学校運営協議会では、各委員より忌憚のない多くの意見・質問を得た。
- ・「高等学校に期待される社会的役割等（スクールミッション）」の策定について、各委員から貴重な意見が得られた。聴取した意見をまとめ学校側で案を修正し、第3回学校運営協議会において承認を得る予定である。
- ・第3回学校運営協議会では、今年度の教育活動の振り返りと次年度の学校運営への提案を行う予定である。